

第6回市民参加及び協働推進市民懇談会会議録

日 時 平成19年1月24日(水) 午後7時00分～9時20分
場 所 全員協議会室

出席者

○市民懇談会委員 長島委員長 大橋副委員長
岩田委員 川原委員 小杉委員 小森委員
関口委員 高橋委員 森川委員

○事務局<政策推進室>

斉藤次長 森川室長補佐 古屋主査 沼尾

| 内 容 | |
|---|-----------------------------|
| 1. 開 会 | 森川室長補佐 |
| 2. あいさつ | 長島委員長 |
| お知らせ | 斉藤次長(組織機構改正、民間活力導入行動計画について) |
| 3. 内 容 | |
| (1) 市民参加・協働に関する提言書(案)について | |
| 《資料》・市民参加・協働に関する提言書～2年間の取り組みのまとめ～ | |
| ・委員意見を受けての修正案 | |
| ・提言書に対する各委員からの意見 | |
| ○提言書作成の意義について事務局説明 | |
| ・委員の任期(2年間)の満了に伴い、これまでの議論を振り返り、一定程度まとめることは、今後の市民参加・協働の推進に繋げるために有意義であることから、文章化し提言としたものである。来年度以降、この提言等に基づき、市は市民参加・協働の推進を行う。 | |
| ○以下、提言書の項目ごとに検討 | |
| ◇「はじめに」について | |
| 事務局：事前提出意見を受け、別紙修正案のとおり修正した。 | |
| 委 員：特に意見なし。 | |
| ◇「市民懇談会概要」について | |
| ・特に意見なし | |
| ◇「自治基本条例制定後の状況」について | |
| ・特に意見なし | |

◇「問題・課題」について

事務局：事前提出意見を受け、別紙修正案のとおり修正した。

委員：特に意見なし。

◇「富士見市らしい協働のまちづくりを進めていくべき方向及び手段」について

委員：参加と協働は一体のものであると考える。この項目の表題中の「協働のまちづくり」を「参加・協働のまちづくり」と修正すべきではないか。

事務局：そのとおり修正する。

■「市民によりわかりやすい情報提供の推進」について

事務局：事前提出意見を受け、別紙修正案のとおり修正した。

委員：(3) 審議会等の情報提供の充実(4) パブリックコメントの情報提供の充実の項目は、市民参加の取組みに移動した方が良いのではないか。

■「市民参加の取組みの更なる推進」について

事務局：事前提出意見を受け、別紙修正案のとおり修正した。

委員：特に意見なし。

■「協働の取組みの推進」について

事務局：事前提出意見を受け、別紙修正案のとおり修正した。

委員：団塊の世代の記述があるが、その世代にのみ着目しているようにとられかねないので、この表現は削除して欲しい。

委員：今回追加した文章は、市民全体の知識や技術の活用を謳っており、この中に団塊の世代も包括されているので、『団塊の世代』を改めて表記する必要はないと思う。

委員：この提言書は、現時点での状況をまとめたものであるもので、時代にあっていれば、団塊の世代の表記は残していいのではないか。

事務局：団塊の世代にのみ着目しているわけではない。今まで取組みが出来ていなかったもので、2007年問題を契機に積極的に取り組んでいこうという意味を込めて敢えて表記したものである。

委員長：委員の意見から判断すると、団塊の世代についての表記は削除するというところでよいか。

<委員…削除するという事で一致した。>

◇その他

委員：提言書の最後に「おわりに」という項目を追加し、「この提言を市政運営に的確に生かしていくことを望みます」というような内容を入れ込んで欲しい。

委員：全体的に文章が長く、わかりにくい。文章を短くし、わかりやすい表現にして欲しい。

委員：提言としてまとめることは有意義であるが、次のステップに向けて市民参加・協働を具体的に進めていく手段などを考えていかなければならないと思う。例えばボランティアセンターの設置がある。これは、ボランティアの横のつながりができるなどのメリットがある。しかし、他自治体ではうまく運営できていないところもあり、様々な議論も必要であろう。

(2) その他

◇委員長よりまとめ方等について確認

委員長：この提言書のまとめ方について確認したい。提言書という形以外に、活動報告など他のまとめ方もあるが、どのような形にまとめた方が良いと思うか。

委員：当市民懇談会の設置要綱の所掌事務には、提言を提出することが謳われている。そのことから提言書とするのが適当ではないか。

＜委員…提言書とすることで一致した。＞

委員長：また、委員からの意見等を踏まえ、この提言書についてさらに議論を詰めていくことも可能かと思われるが、どのようにすればよいと思うか。

委員：今日の会議でほとんど修正は終わっているものとする。あとは、今日の意見を踏まえ、事務局に修正していただいたものを郵送でやり取りする形ではないか。

＜委員…追加の会議は開催しないことで一致した。＞

委員長：また、提出の仕方については、どのように考えるか。

委員：都合のつく委員の出席により、市長に直接提出できればと思う。

事務局：市民懇談会から、市長に直接手渡しする形を考えている。その場には、委員長、副委員長だけではなく、都合が合えば他の委員さんにも参加していただければと思う。

＜委員…提出方法については、上記のとおりで一致した。＞

◇今後のスケジュールについて

事務局：今回の会議を受け修正したものを、1月末～2月の中旬あたりを目安に委員各位に郵送にて送付する。ご意見があればその時点で提出いただきたい。その意見を受け最終提言を作成する。なお、提言書の最終調整については、委員長と事務局の間で行わせていただく。

＜委員…今後のスケジュールについて確認した。＞

◇最後の会議に当たって

委員：指定管理者制度が導入される中、受け皿づくりは大変であるが、市民団体による管理なども進められればと思う。新しい組織に期待するが、他の仕事も担当しており、「市民参加・協働」の取組みがどの程度進められるのか心配な面もある。

委員：何事も信頼関係が重要だということを実感した。行政と市民も信頼関係が重要である。

委員：現在、地域こども教室という取組みを小学校で行っている。子育て世代の人も参加していただくと、より活発な活動になるので、機会があれば参加していただきたい。

委員：実際にボランティアをやっている人でも、市民参加・協働の取組みに興味をもっていない人も多い。今後、市民も意識改革に努めていく必要がある。提言書の内容については、もっとわかりやすい内容にしていきたい。

委員：子どもの世代も、もっと市政に関わることができるのではないか。また、市

議会も含めた取組みをしても良いのではないか。

委員：この市民懇談会に参加し、市民参加・協働について考える良い機会になった。今後も、市民の一人として市政に積極的に参加していきたい。

委員：市民参加・協働に関わる人を増やしていくには、市政に関する学習機会を増やしていく必要がある。また、具体的な取組みを進めていくことが重要である。

委員：今後も市民参加・協働について、取り組んでいきたい。

4. 閉 会 森川室長補佐